感染症ひとくち情報

2025年5月30日
東京都健康安全研究センター

しんしゅうせいずいまくえんきんかんせんしょう

侵襲性髄膜炎菌感染症ってどんな病気？

どんな病気？

侵襲性髄膜炎菌感染症の原因となる髄膜炎菌は、健康な人の鼻やのどにも存在する菌で、感染しても必ず発症するわけではありませんが、血液、髄液などに髄膜炎菌が入り込むと侵襲性髄膜炎菌感染症を発症します。

どんな症状がでるの？

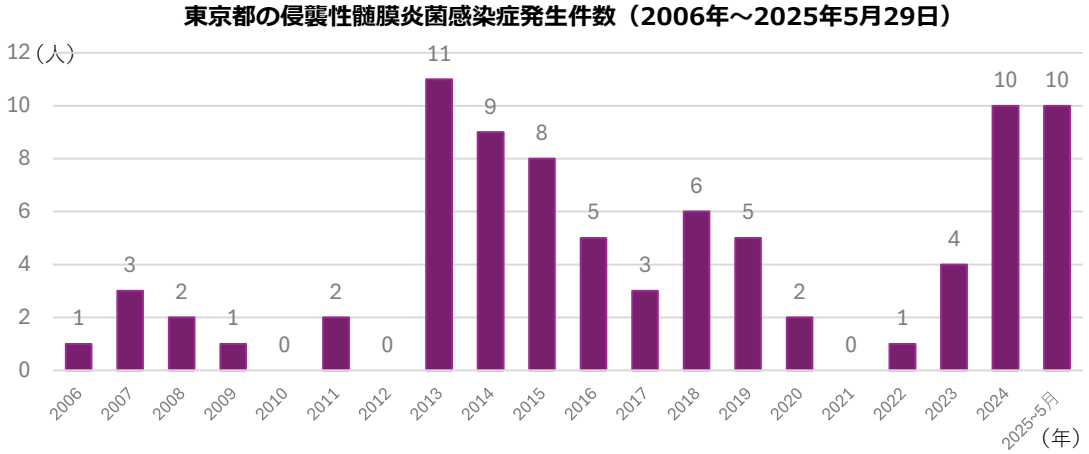
潜伏期間は2～10日(平均4日)です。症状は様々で、頭痛、発熱、吐き気などの風邪のような症状や、24時間～48時間以内に急速に進行し重症化する場合もあります。重症になると意識障害やけいれんが起こることもあります。

どうやってうつるの？

患者や保菌者から飛沫感染によりうつります。特に、同居生活や、大人数が集まる場所 （寮、イベントなど）での活動、 咳やくしゃみ、 キス、 飲み物の回し飲み、食器の共用などが感染のリスクを高めるといわれています。

どれくらい発生しているの？

都内では毎年数件の発生でしたが、2025年は5月末時点ですでに昨年1年間と同数発生しています。世界的にはサハラ以南のアフリカ中央部に多いのですが、欧米では学生寮での集団発生が多発している国もあるため、渡航される際には、事前に渡航先の感染状況を確認しておきましょう。



治療はあるの？予防法は？

抗菌薬による治療を行います。重症化しないためには、早期に治療を行うことが大切です。予防法については、患者と同居しているなど、濃厚接触者になった場合は抗菌薬の予防投与を行う場合があります。また、ワクチンは任意接種ですが、流行地域へ渡航する際などは接種が推奨されています。